

■「CSRレポート」の発行にあたって

当社は、2007年4月1日にダイヤモンドリースとUFJセントラルリースの合併により誕生し、今回、三菱UFJリースとして初めての「CSRレポート」を発行することとなりました。

本レポートは、三菱UFJリースのCSRに対する考え方や活動を、様々なステークホルダーのみなさまにわかりやすくご理解いただけるようにまとめたものです。

編集にあたっては、会社の仕組みや制度、様々な課題に対する取り組みをできる限り具体的に記載することに努め、とりわけ当社が積極的に取り組んでいる環境問題への対応について詳しくお伝えできるように構成しております。

また、関係者の声を多く取り上げ、企業としての「顔」の見えるレポートとなるよう心がけました。

本レポートを通じて当社へのご理解を深めていただくとともに、みなさまからご意見・ご要望をお寄せいただき、更なるCSR経営の向上を目指していきたいと考えています。

■発行月

2007年8月

■対象期間

2006年度（2006年4月1日～2007年3月31日）

（一部、対象期間外の活動を含んでいます）

■対象範囲

三菱UFJリース株式会社（前身であるダイヤモンドリース株式会社とUFJセントラルリース株式会社）、およびグループ会社の取り組みを対象としています。



東京都千代田区丸の内1-5-1 新丸の内ビルディング
TEL ▶ 03-6865-3002
HP ▶ <http://www.lf.mufg.jp/>



このレポートは大豆油インキを使用しています。



管理森林から伐採した木材を使用して自然森林を守っています。

CSRレポート2007

Corporate Social Responsibility Report 2007

創刊号



CSRレポート2007

Corporate Social Responsibility Report 2007

創刊号

INDEX

| | |
|-----------------|-------|
| トップコミットメント | 02 |
| 企業コンセプト | 03 |
| 企業情報 | 04 |
| CSR概要 | 05・06 |
| 株主・投資家のみなさまのために | 07 |
| お客さまのために | 08 |
| 社員のために | 09・10 |
| 地域社会のために | 11・12 |
| 環境のために | 13～18 |

✿ トップコミットメント



社会と環境に配慮した経営を推進し、
みなさまから信頼される企業に。

三菱UFJリースは、2007年4月1日のダイヤモンドリース株式会社とUFJセントラルリース株式会社との合併により、新たなスタートを切りました。

この合併により当社のステークホルダーであるお客さま、株主様、社員の数が大きく拡大いたしました。こうしたステークホルダーの方々のご期待に応えるべく、当社は「お客さま、株主様、社員からの信頼に応え、豊かな社会の実現に貢献します」を経営理念として掲げております。

社会的責任を重視する姿勢は三菱UFJリース誕生後に始まったものではなく、合併前の両社においてそれぞれ実践されてきた取り組みや考え方が受け継がれたものです。

合併前より、リース会社はリース物件の導入と廃棄という、いわば入口と出口の部分に大きなかかわりを持つという考えの下、責任を持った物件処理や環境ビジネスを推進すると共に法令遵守、社会貢献活動も重要な課題と位置付けて取り組みを続けてまいりました。三菱UFJリースは、こうした取り組みを今後も継続していきます。また、透明性の高い経営を推進するとともに、内部統制管理を充実させ、様々な分野で企業の社会的責任を果たしてまいります。

今回のCSRレポートは三菱UFJリースとして初めてのご報告となります。前年度までの活動内容のご報告に加えて、三菱UFJリースとしての体制や方針についても説明を記載しました。当社のCSRへの考え方や取り組みについてご理解いただくとともに、忌憚のないご意見をお聞かせいただければ幸いです。

2007年8月

mitsubishi UFJ LEASE & FINANCE

代表取締役社長

小幡 尚孝



■コーポレートキャッチコピー

「Value Integrator」

このキャッチコピーは、有形・無形の資産＝現在価値(Value)をリース&ファイナンスの手法により統合(Integrate)し、新たな価値を創造するという三菱UFJリースの理念をあらわしています。

三菱UFJリース株式会社について

三菱UFJリース株式会社は、2007年4月1日、ダイヤモンドリース(DL)とUFJセントラルリース(UFJCL)が合併して誕生しました。DLとUFJCLは、顧客層や商品サービス、地域性での重複が少ないため、統合による相互補完性が極めて高く、大きなシナジー効果が期待できます。合併

によって売上高は1兆円、営業資産残高は約3兆円を超える規模となりました。自由闊達な企業文化と市場を意識した開かれた経営のもと、両社の営業資源・ノウハウを融合させ合併効果をより発揮することで、総合ファイナンスカンパニーとして更なる発展を目指してまいります。

経営理念

お客様、株主様、社員からの信頼に応え、豊かな社会の実現に貢献します。
●お客様にベストソリューションを提供し、企業価値の持続的向上に努めます

- 法令を遵守し、環境に配慮した企業活動を通じ、地域・社会の発展に貢献します
- 社員一人ひとりが意欲と誇りを持てる環境を提供します

倫理綱領

三菱UFJリースグループの倫理綱領は、グループとして共有すべき基本的な価値観や倫理観を定め、グループの役員・社員等の基本的な指針とするものです。

- 1 信頼の確立**
グループの社会的責任と公共的使命の重みを十分認識し、情報管理を徹底するとともに、企業情報の適時適切な開示を含め、健全かつ適切な業務運営を通じて、社会からの揺るぎない信頼の確立を図ります。
- 2 お客さま本位の徹底**
常にお客さま本位で考え、十分なコミュニケーションを通じて、お客さまのニーズに最も適合する商品やサービスを提供し、お客さまの満足と支持をいただけるよう努めます。

- 3 法令等の厳格な遵守**
あらゆる法令やルールを厳格に遵守し、社会規範にもとることのない、公正かつ誠実な企業活動を遂行するとともに、グローバルに展開する企業グループとして国際的に通用する基準も尊重します。
- 4 人権および環境の尊重**
お互いの人格や個性を尊重するとともに、人類共通の資産である地球環境の保護を重視して、社会との調和を図ります。
- 5 反社会的勢力との対決**
市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力に対しては、毅然とした態度を貫きます。

会社概要

| | | | |
|------|--|-----|--|
| 商号 | 三菱UFJリース株式会社 (Mitsubishi UFJ Lease & Finance Company Limited) | 資本金 | 16,440,295,000円 |
| 本社 | 東京都千代田区丸の内一丁目5番1号 | 株式 | 上場証券取引所 東京証券取引所 市場第一部 名古屋証券取引所 市場第一部 |
| 設立 | 1971年4月12日 | 決算期 | 3月31日 |
| 事業内容 | 各種物件のリース/各種物件の割賦販売/ 各種ファイナンス業務/国際業務 他 | | |

事業内容

リース関連サービスのみならず、ファイナンス事業等の事業の多角化を積極的に展開する総合ファイナンスカンパニーとして新しいフィールドに挑戦します。

- ファイナンスリース/WEB関連ビジネス**
ファイナンスリースや割賦販売などの金融サービスや、**e-Leasing Direct**などWEBを利用したサービスを提供いたします。
- オペレーティングリース**
半導体製造設備や産業・工作機械などを、お客さまの生産計画に合わせた自由な期間設定でリースいたします。
- 中古機器売買ビジネス**
半導体製造設備、工作機械、医療機器などの中古機器の売買やリースアップ物件の売却などを行います。
- 不動産関連ビジネス**
事業用借地権を活用したシンフォニー（建物リース）や店舗転貸貸システム、および不動産関連のファイナンスや融資に取り組んでいます。
- 国際関連ビジネス**
お客さまの海外展開に対し、当社の海外拠点において、会計・税務などを含む多面的なサポートを提供いたします。
- 資産管理ビジネス**
PCやソフトウェアの導入から、セキュリティ、ライセンス管理、データ消去、廃棄までトータルなソリューションを提供いたします。
- 金融ストラクチャリング**
各種債権のオリジネーション、シンジケーション、ポートフォリオ機能によって、財務・事業戦略をサポートいたします。
- PFI (Private Finance Initiative) ビジネス**
教育施設や公共施設などの整備運営に対して、ファイナンスの提供からプロジェクト全体のコーディネートまでを行います。
- 環境関連ビジネス**
環境リサイクル事業、バイオマスや風力発電などの新エネルギー事業、ESCO事業、CO₂排出権ビジネスなどに取り組んでいます。
- 医療関連ビジネス**
最先端医療機器のリース、診療報酬債権ファクタリング、開業サポート、および中古医療機器の売買などに取り組んでいます。
- 事業リスクテイク**
金融・非金融分野のプレーヤーと積極的に提携し、様々な事業リスクに取り組んでいます。

三菱UFJリースグループ

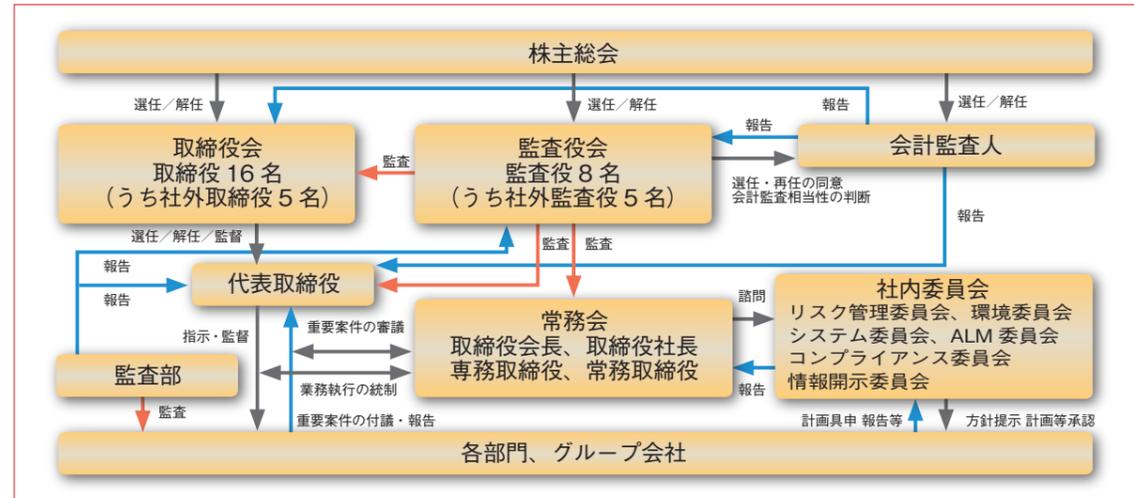
特色あるスペシャリティを有する三菱UFJリースグループのネットワーク

三菱UFJリースグループは、国内拠点、それぞれ高い専門性と特色を持ったグループ会社、海外拠点などで構成されるネットワークを有しています。事業内容も多岐にわたるグループの力を結集させ、総合ファイナンスカンパニーとして、お客さまの多様なニーズにお応えしています。



コーポレート・ガバナンス

三菱UFJリースは、経営上の重要な課題としてコーポレート・ガバナンス（企業統治）の充実に向け、新たな取り組みと検討を継続的に進めております。企業の持つ社会的責任を明確に認識し、透明かつ健全な経営の実施、コンプライアンスの重視、取締役会の活性化、監査役会および内部監査制度の充実、適時適切な情報開示、投資家向け広報（IR活動）の活性化などを柱として組織・体制を構築しています。三菱UFJリースでは、グループ全体としてコーポレート・ガバナンスの更なる充実に努め、あらゆるステークホルダー（利害関係者）の利益・権利を尊重するとともに、みなさまからのご期待に応えられるよう努めてまいります。



内部統制システム

法令を遵守し、透明かつ公正な企業活動を推進していくために、内部統制システムの整備と適正な運用に努めています。経営に関する重要事項は取締役会にて決定しています。16名の取締役のうち、5名は社外取締役で、透明性とチェック機能の確保を図っています。また、取締役会に付議する事項の立案を行い、併せて取締役会決定の経営基

本方針に基づき、具体的方針を立て、業務執行の統制を行う機関として常務会を設置しています。監査役会は8名のうち5名が社外監査役です。また、監査部は「内部監査規程」と年間の監査計画に基づき、事務監査、業務監査、裁量監査、コンプライアンス監査、情報セキュリティ監査、環境監査、システム監査等を計画的に実施し、必要な指摘・指導を行っています。

社内委員会

内部統制システムを適切に機能させるため、業務執行ラインとは独立して「リスク管理」、「環境」、「システム」、「ALM」、「コンプライアンス」、「情報開示」の各社内委員会を設置しています。

- リスク管理委員会**
信用リスク、市場リスク、資金流動性リスクほか、多様なリスクの最新状況について所管部店より報告を行い、対応・方針等を確認します。
- 環境委員会**
ISO14001に基づいて環境マネジメントシステムを運用します。

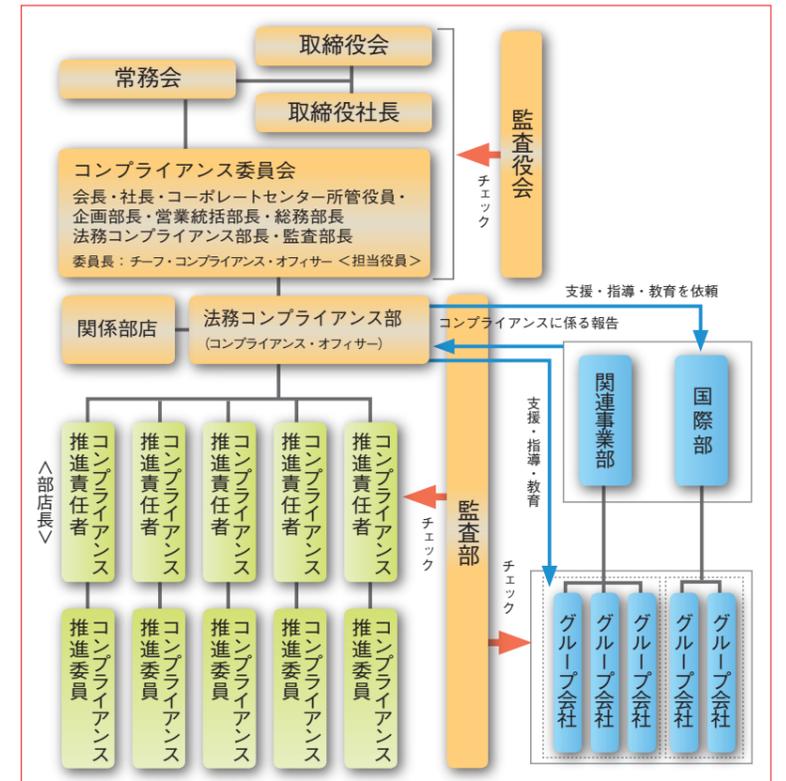
- システム委員会**
情報システムに対する適切な施策を実施します。
- ALM (Asset Liability Management) 委員会**
金利リスクを主体とした市場リスクの管理、現状および課題の把握、および対応方針を審議します。
- コンプライアンス委員会**
コンプライアンス徹底の状況を定期的に把握・確認し、コンプライアンス体制の強化と確立を図ります。
- 情報開示委員会**
情報開示の適正性、および開示にかかわる内部統制・手続などに関する審議を行います。

コンプライアンス体制

三菱UFJリースは、「コンプライアンス規則」の周知徹底を図るとともに、法令遵守はもとより更に高い倫理観に基づいた行動を求め、コンプライアンス体制の強化に努めています。

コンプライアンス委員会は3ヶ月ごとに開催され、コンプライアンス徹底の状況等を定期的に把握し協議を行っています。全社的な統括責任者として「チーフ・コンプライアンス・オフィサー（法務コンプライアンス部担当役員）」を配置するとともに、各店には教育指導担当としての「コンプライアンス推進委員」を1名配置し、定期的・継続的な教育研修を実施しています。

また、「コンプライアンス・ホットライン規程」を制定してコンプライアンスに反する行為の報告・相談窓口を設置し、内部牽制機能を強化しています。



情報セキュリティ

三菱UFJリースは、お客さまの個人情報や営業情報など、情報にかかわるセキュリティ管理を十分に行うことが、当社のかけがえのない財産である信用・信頼につながるものと認識し、情報セキュリティレベルの維持・向上を図っております。

情報の保存および管理については、「情報セキュリティ管理規程」、「個人情報保護規則」、「社員等情報取扱規程」、「文書保存・廃棄規程」に基づき、体制を整備して適切に行っています。

グループマネジメント

グループ企業に至るまでコンプライアンス重視の意識を徹底させ、業務の適正化を維持するために、三菱UFJリースグループ各社は「三菱UFJリースグループ倫理綱領・行動規範」を共通の指針として、内部統制体制を継

続的に整備しています。三菱UFJリースは、グループ各社の自主性を尊重しつつ、報告・協議・モニタリング・監査などを通じて、グループ各社を適正に管理しています。

CSRについての考え方

三菱UFJリースの活動は、お客さま、株主・投資家のみなさま、お取引先、地域社会のみなさま、従業員など多くのステークホルダーに支えられて成り立っています。当社ではCSR経営を徹底することで、ステークホルダーのみなさまからの信頼に応え、持続的な企業価値の向上を図って

いきたいと考えています。そのため、「企業理念」や「倫理綱領」、およびコンプライアンスに基づいた健全な事業活動を実践するとともに、企業市民としての自覚を持ち、地域・社会・環境への貢献活動にも積極的・主体的に寄与してまいります。

様々な機会とツールを活用して積極的なIRに努めています。

株主・投資家のみなさまから信頼と適正な評価を得られるように、コミュニケーションの促進と公平・迅速・適切な情報開示を進めています。

IR活動の基本方針

三菱UFJリースでは、「IRポリシー」に基づいて、経営方針、事業戦略、事業活動、財政状況などに関する情報を、正確、迅速、公平、積極的かつ継続的に提供することを基本方針としてIR活動の充実に努めています。情報開示は証券取引所の規則や証券取引法等の諸法令で定められた項目に沿って適時適切に実施するとともに、投資判断に有用と思われる情報については自主的・積極的に開示してまいります。

投資家とのコミュニケーション

本決算・中間決算の発表後には、決算説明会を実施し、アナリストや機関投資家向けに、代表取締役社長が決算概要を直接説明しています。また、個人投資家のみなさまに対しても毎年継続的に説明会を開催しているほか、海外の投資家に対しては、アメリカ、ヨーロッパ、アジアを定期的に訪問して機関投資家向けの説明会・個別面談を実施しています。

IRポリシー

1. IR活動の目的と基本姿勢

当社は、株主・投資家のみなさまに、当社の経営方針、事業戦略、事業活動、財政状況等に関する情報を正確、迅速、公平、積極的かつ継続的に提供し、株主・投資家のみなさまの信頼と適切な評価を得ることを目指します。

2. 情報開示の基準

当社では、証券取引所の規則や証券取引法等の諸法令で開示が定められている項目はもとより、株主・投資家のみなさまにとって有用と思われる情報を自主的・積極的に開示します。ただし、プライバシーを侵害する情報等、開示が不適切と判断される情報についてはこの限りではありません。

3. 情報開示の方法

適時開示に該当する会社情報は、東京証券取引所の適時開示情報伝達システム（TDnet）、プレスリリースで公表するとともに、情報開示の適時性、公開性の観点から当社のホームページでも公開します。

また、株主のみなさまには、当社の事業活動を報告書類にてお知らせするほか、投資家のみなさま向けに説明会を開催するなど、当社の事業展開全般について理解を深めていただけるように努めます。

4. 将来見通しについて

当社が開示する情報の中には、将来の見通しに関する事項が含まれる場合があります。こうした事項は、資料作成時点における当社の判断に基づくものであり、また一定のリスクや不確実性が含まれており、経済情勢や市場動向の変化等により、実際の結果と必ずしも一致するものではありません。

5. 未公開の重要情報について

当社への問い合わせ、取材や当社が主催または参加する決算説明会、ミーティング等においては、既に公開された情報や周知となった事実に関する説明に限定し、未公開の重要情報について言及することはありません。

6. 沈黙期間

当社は、決算情報の漏洩を防ぐため、決算期日（中間決算及び四半期開示を含む）の翌日から決算発表日までを沈黙期間とします。この期間は、決算情報に関してコメントすることや質問にお答えすることを控えさせていただきます。

ただし、沈黙期間中に発生した事項が適時開示に該当する場合には、適時開示規則に従い、適宜情報を開示します。

制定：2007年4月1日

ホームページには、決算情報、決算概要資料、プレスリリース、決算短信、アニュアルレポートなどのIR情報を開示するとともに、「IRに関するお問い合わせ」窓口を設置しています。

こうしたコミュニケーションを通じて株主・投資家のみなさまの声を経営に反映させていくとともに、企業価値・株主価値を増大させることで適切な利益還元にも努め、株主・投資家のみなさまのニーズにお応えしてまいります。

名証IRエキスポ

2006年7月14日（金）・15日（土）、名古屋証券取引所が主催する個人投資家向けイベント『名証IRエキスポ2006』に参加しました。来場者には、事業報告書とCSR活動レポートを手渡し、リース業界や当社の概要について説明しました。また、当社認知度・投資判断材料などを把握するため、アンケートにお答えいただきました。

※2007年度も7月13日（金）、14日（土）の2日間にわたり参加しています。

お客さまの視点から商品サービスを見直し顧客満足度の向上を目指します。

お客さまやお取引先の声に真摯に耳を傾け、ご意見を取り入れながら、顧客満足向上と新しい商品サービスの開発につなげています。

顧客満足向上についての基本的な考え方

三菱UFJリースでは、業務の基本は常にお客さまの声の中にあると考え、お客さまの声を的確に商品開発やサービスの質の向上につなげていけるようPDCAサイクルを導入しています。これは、Plan（計画・立案）→Do（実施）→Check（調査）→Act（改善）というプロセスにより継続的に顧客満足度の向上を目指すものです。

2006年度にはユーザー、サプライヤーのみなさまにアンケート調査を実施し、寄せられたお客さまの満足度や要望をもとに、部署ごとに協議・検討の上、業務改善や新しい商品サービスの開発などに生かしております。

顧客満足向上のためのサービス展開

お客さまにご満足いただける新しい商品サービスを常に追求しています。

●e-Leasing Direct（イーリーシングダイレクト）

見積から契約、契約情報照会、リース資産の管理、満了の手続きに至るまで、リース契約の手続きがすべてインターネット上で行える便利なサービスです。

契約書・検収完了証に電子署名且つ、タイムスタンプにより、非改竄による完全性の証明を基に、電子文書として、長期保管ができます。また、「いつ」「誰が」「何を」したかを記録に残すことができるため、内部統制の強化にも有効です。

●海外向け設備のサポート

三菱UFJリースは、海外進出しているお客さま、または海外進出を予定しているお客さまの設備導入ニーズを積極的にサポートしています。

アジア、アメリカ、ヨーロッパに日本人スタッフを配置した海外拠点を設置し、お客さまのニーズに対して、最適なファイナンスをご提案し、きめ細かにサポートしていきます。

●商品ラインナップ

お客さまの高度化するニーズに、多様な商品群で最適なソリューションをご提供いたします。

| | | |
|------------------|--|--|
| リース | ●ファイナンスリース ●オペレーティングリース ●シンフォニー（建物リース） ●店舗転賃貸「メヌエット」 ●オートリース ●グリーンリース | ●e-Leasing Direct ●Lease Portal ●パートナーリース ●工作機械スピードリース ●リースバック |
| レンタル | ●PCレンタル ●測定器レンタル ●工作機械レンタル | |
| ファイナンス | ●不動産関連ファイナンス ●売掛債権ファクタリング ●診察報酬ファクタリング ●PFI事業 | ●TKCクリニック開業 ●ファイナンス ●割賦販売 |
| コンサルティング・ソリューション | ●海外向け設備のサポート ●ESCO ●リース事業進出サポート ●入居保証金流動化 ●病・医院開業サポート ●データ消去サービス | ●IT資産管理ソリューション「DREAMS」 ●Webアセット ●ITコンサルティング・通信ネットワーク構築 |
| 販売・サービス | ●中古機械の買取・販売 ●中古医療機器の買取・販売 ●中古半導体製造設備の仕入販売 | ●短期社債（電子CP） ●日本型オペレーティングリース（JOL） ●保険 |

e-ビジネス推進部 千葉 泰大

Voice
e-Leasing Direct
担当者の声



2004年のサービス開始以来、毎年申込社数が増加しています。スピードの早さや、ペーパーレスで環境に優しく、データ管理も容易なことなどが商品のメリットです。また、いつ誰が契約を行ったかが遡及できるトレーサビリティもご好評を得ています。現状に満足せず、お客さまから寄せられるご要望をもとにサービスの強化を図り、更なるお客さま満足度の向上を目指して努力してまいります。

社員一人ひとりの生活とキャリアプランを しっかり支援していきます。

誰もが働きやすい職場づくりと、多彩なキャリアアップ支援によって、社員の意欲と満足度の向上に取り組んでいます。

出産・育児の支援制度

少子化や高齢化が社会問題となっている現在、三菱UFJリースは女性・男性を問わず出産・育児などを行う社員のサポートは企業の大きな社会的責任であると考え、育児休業など各種支援制度の充実に努めています。2006年10月には、育児休業を従来の倍の期間にするなど大幅な拡充を行いました。こうした制度は、社員の家庭生活上の負担を軽減する重要な施策として、手厚く整備しています。

●主な支援制度

| | |
|--------|------------------------------------|
| 産前特別休業 | 出産予定日の6ヶ月前から |
| 育児休業 | 子どもが2才になるまで |
| 出産記念休暇 | 妻が出産する男性社員に2日まで |
| 短時間勤務 | 妊娠中の女性社員、小学校就学前の子どもがいる男女社員に1日2時間まで |
| 看護休暇 | 年10日まで |

社員意識調査

自社の取り組みについて社員の意見・要望・関心を調べるため、2006年6月～7月、全社員を対象に匿名で意識調査を行いました。回答結果は今後の経営および人事施策に役立てていきます。

「愛知県ファミリー・フレンドリー企業」の認証

ライフ＆ワークバランスの取り組みが認められ、2006年10月に「愛知県ファミリー・フレンドリー企業」として認証されました。この認証は、男女ともに仕事と育児・介護の両立を支援する制度や、多様で柔軟なワークスタイルを選択できる取り組みを行う企業に与えられるものです。



ES (社員満足度) の向上

三菱UFJリースは、ES (社員満足度) の向上が働く意欲を高め、お客さまの満足にもつながると考え、様々な取り組みを実施しています。

社員が誇りとやりがいを持って働けるよう社内コミュニケーションを重視し、社内ネット上に役員から社員へのメッセージを毎月掲載しているほか、全拠点にIR担当者が外向き決算概要について説明をする機会も設けています。更に、社内報などにより社内の情報周知と社員間のコミュニケーション活性化を促進しています。

また、仕事だけでなく、プライベートの充実を支援するため、ボランティア休暇、リフレッシュ休暇、永年勤続休暇などの制度も設けています。

人事部長 君嶋 宏之



Voice 人事部長の声

2006年10月の育児休業制度の改定では、利用者にヒアリングを行い、社員の多様な事情に配慮した制度整備を行いました。産前特別休業、男女共に利用できる短時間勤務、男性社員への出産記念休暇などを設けた今回の改定は、女性社員の活躍の機会を更に上げるとともに、男性社員の育児への参画を応援するものです。当社は今後も、社員が長期にわたり活躍できる職場環境の整備を進めていきます。

教育研修制度

企業としての財産である「人財」を育て、社員一人ひとりが目指すキャリア開発を図れるように、三菱UFJリースでは教育研修制度の充実に力を入れています。やる気のある人には支援を惜しまず個々の能力の伸長を促すことで会社全体のボトムアップにつなげ、総合ファイナンスカンパニーにふさわしい専門家集団の育成を図っています。

キャリア開発体系



新人研修

スキル研修など、業務に必要な知識が基本から身につくようにカリキュラムが組まれています。また、マンツーマンのOJTによる実践を通じた知識習得も併せて行っています。

トレーニー制度

広い視野と専門性を養い、最先端の理論やノウハウ、スキルを習得するために、国内および海外の大学やビジネススクール、国内および海外の企業などへ派遣するトレーニー制度を取り入れています。

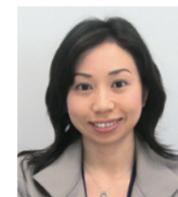
社内ビジネススクール

若手層を対象として、営業力強化に直結するスキル向上を目指した社内ビジネススクールを実施しています。ロジカルシンキング、アカウンティング、ファイナンス、マーケティング、経営戦略の各科目ほか、レポート等を通して文章力など全般的なスキルの底上げを図ります。現在までに約100名の修了生がいます。

コース転換制度

社員のキャリア形成に柔軟に対応し、職務の拡大に対する意欲に応えるため、一定の水準を満たした場合に、コース転換を認めています。

第一営業部 平井 麻耶乃



Voice 社内ビジネススクール 受講者の声

社内ビジネススクールを受講して、ファイナンスの基礎的知識と、ビジネスの基礎力を獲得できたように思います。自分で足りないと感じていたコミュニケーションスキルに関しても、様々な年齢層の人と討議してひとつの結論に導き出す方法について学ぶことができ、大きな収穫でした。今後も学んだ知識・経験を活かして、組織の中でリーダーシップを発揮できる人材になれるよう努力していきたいと思っています。

企業の社会的責任を果たすため 社会貢献活動を積極的に展開しています。

美しく豊かな社会・生活・環境づくりのために、
地域社会の一員として協力と支援の輪を広げていきます。

名古屋大学寄附講義

●講義の目的

地域社会の一員として社会や環境との共生を目指す貢献活動の一つとして、三菱UFJリースは名古屋大学大学院環境学研究科と協力して2006年度より寄附講義「環境問題への挑戦」をスタートしました。

多くの人に環境問題について関心や理解を深めていただくとともに、これからの環境活動を担っていく人材の育成支援を目的として、寄附講義の全体テーマは「人間社会と自然のバランスをいかに再構築するか」としました。環境問題について第一線で取り組まれている専門家を講師としてお招きし、地球環境問題について幅広く体系的に学んでいきます。

また、教室での講義にとどまらず、実際に様々な現場を訪れ、環境問題に直に触れることのできるフィールドスタディも実施しています。

●市民にも広く開放

この講義は、より多くの方に受講していただけるよう、単位互換制度を活用して、愛知県内の他大学の学生も受講することができます。また、一般市民にも無料で開放しており、名古屋市の「なごや環境大学連携講座」としても位置付けられています。初年度の2006年度は併せて217名が受講しました。

なお、今後の受講要項等については名古屋大学大学院環境学研究科にお問い合わせ下さい。



名古屋大学大学院環境学研究科 准教授 高野 雅夫 様

Voice 担当准教授の声



2005年から「国連・持続可能な開発のための教育（ESD）の10年」がはじまっています。これは、グローバリゼーションの進展の中で深刻になる環境問題をはじめ、経済、社会のゆきつまり、すなわち持続不可能性の問題を解決するための教育・学習活動を世界中で強化していくという取り組みです。

今年度の寄附講座は、この「国連ESDの10年」に参画するもので、中部地域で焦点となっている持続不可能性の問題を学び、その解決の糸口を考えるものです。講師には他文化共生や環境問題などさまざまな分野の第一線で問題の解決のための取り組みをおこなっている専門家やNGOリーダーを招いて、臨場感あふれる内容となっています。名古屋大学の学部生、大学院環境学研究科の大学院生そして市民が同じ教室で学んでいます。持続可能な社会づくりはひとつづくり。受講生は講師の熱意やミッションにふれて、グローバルな問題意識を育みつつ、自らも地域の将来のために貢献しようとする思いを抱きつつあります。

三菱アジア子ども絵日記フェスタ

三菱UFJリースが加盟する三菱広報委員会では、アジア太平洋ユネスコ協会クラブ連盟、社団法人日本ユネスコ協会連盟と共催で、1990年より「三菱アジア子ども絵日記フェスタ」（2006年に「アジアのこどもたちの絵日記展」より改称）を実施しています。アジア諸国の子どもたち（6～12才）から「絵日記」を募って紹介するもので、これを通じて相互理解と国際交流を深めるとともに、アジア諸国の識字率向上を支援しています。



(福岡支店)

(北陸支店)

「チーム・マイナス6%」に参加

2005年2月に発効した京都議定書では、温室効果ガス排出量の削減目標が国ごとに決められました。日本の目標は2008年から2012年の間に1990年比で6%の削減。その実現のために国民的プロジェクトとしてスタートしたのが「チーム・マイナス6%」です。

趣旨に賛同した個人・法人・団体がチーム員として参加しています。当社も2006年6月にチームとして登録。地球温暖化防止のために、会社だけでなく日常生活においても社員一人ひとりの積極的な取り組みを促進しています。



清掃活動のボランティア

三菱UFJリースは社員の自発的な地域社会への貢献活動を奨励しています。

2006年5月28日、北陸支店の社員が金沢市の専光寺浜海岸の清掃に参加し、ゴミや漂流物を収集しました。こうした活動は毎年恒例となっており、今回で4回目です。また、2006年6月4日には福岡支店およびグループ会社の有志とその家族が、地域環境美化運動「ラブアース・クリーンアップ2006」に参加し、福岡市荒津海岸の清掃を行いました。

福岡支店 印出井 崇誠

Voice ボランティア活動者の声



ボランティア活動に参加したのは初めてでしたが、休日の朝にもかかわらず多くの人が参加しており、地域環境への意識の高さに驚きました。一番目についたのはタバコの吸殻です。喫煙マナー改善の呼びかけが浸透しつつありますが、改めて考えさせられました。一人ひとりが地球環境・公共マナーにより深い関心を持ち、こうしたボランティア活動を行わなくても美しい景観を保てるようになれば、と思いました。

持続可能な社会の実現を目指して 環境保全に貢献してまいります。

かけがえのない地球環境の保全を重要なテーマとして認識し、
企業経営や日々の業務の中で環境活動を実践しています。

環境についての考え方

三菱UFJリースは、「リース事業はモノにかかわるという
仕組みにおいて、環境問題に高く貢献できるビジネスで
ある」との観点から、厳しい環境意識を全社員に求めています。
「環境方針」に基づいて地球環境保全に取り組み、循環型社会形成へ
貢献する環境配慮型経営を推進しています。

環境方針

- 1 リース事業を通じて経済的目標を達成するとともに、
全ての事業活動において環境保全を推進する。
- 2 環境目的・目標の設定・見直し及びマネジメントレ
ビュー等を通じてシステムの継続的改善を図る。
- 3 以下の通り汚染の予防に努める。
(1) 省資源、省エネルギー、廃棄物の低減等に取り組
み、効率の向上、コストの削減を図る。
(2) リース終了物件処理等においては、廃棄物の減
量化と資源リサイクル及びリユースを推進する。
- 4 関係する法規制及びその他の要求事項を遵守する。

社員への環境教育

三菱UFJリースでは、一人ひとりの環境意識を高める教育
を重視し、全社員に「環境方針」を記載したカードを携帯
させるとともに、毎年定期的に環境活動の目的・目標の
周知を図る教育を行っています。また、3ヶ月に一度、環境
活動の取り組み例・好事例を掲載した「環境かわら版」を
発行しています。

更に、環境に大きな影響を持つリース終了物件の処理や
不動産取引に携わる社員には、別途教育を施すほか、継
続的にフォロー教育を実施しています。

環境に優しいオフィス

オフィスの業務においても省資源・省エネルギーに配慮し
た取り組みを推進しています。
原則として紙はすべて再生紙を使用し、文具はグリーン購
入法適合商品の購入を進めています。

ISO14001 認証取得

ISO14001認証を2001年1月に取得いたしました。2005
年12月には、第4回定期審査兼2004年版移行審査が実
施され、定期審査・移行審査とも承認されました。また、
2006年12月には、第2回更新審査が実施され、それぞ
れの部門で大きな成果を挙げ、システムが有効に機能して
いると評価されました。



日本政策投資銀行の環境格付取得

日本政策投資銀行の環境配慮型経営促進事業における
環境格付で、リース会社として初めて最高位（ランクA）を
取得しました。

環境配慮型経営促進事業とは、企業の環境経営度を評
点化してそのランクに応じて適用金利が決定される融資
制度で、当社はランクAの優遇された金利を適用されてい
ます。

3Rの推進や、環境機器の取り扱い、廃棄物の適正な処理などによって、
廃棄物排出量を削減し、循環型社会の実現に寄与しています。

3Rの取り組み

環境に優しい循環型社会の実現に向けて、リース終了物
件についてはリデュース（廃棄物の低減）、リユース（中
古市場で活用）、リサイクル（再資源化）の3Rを推進し、
できる限り廃棄物の量を減らすよう努めています。

| | |
|-------|---------------------------------|
| リデュース | 再リースや転売により製品使用期 間を延ばして廃棄物を削減 |
| リユース | 再リース、中古品として販売 |
| リサイクル | 原材料として再利用 |

VA物件取得活動の推進

リース契約が終了した後もまだ使用できる物件を有効
に活用していくことが、廃棄物を減らし環境への優しさ
につながると考え、三菱UFJリースはそうした「VA物件
（Value Asset＝価値ある物件）」の取得を推進してい
ます。

VA物件とは、リース契約終了後において転売が見込ま
れる物件、または転売は見込めないものの一般的に経済耐
用年数が長く、再リースされる可能性が高い物件を指し
ます。

VA物件は経年による資産価値の劣化が遅く、長期に使
用されるので、廃棄物の排出量削減に効果的です。

環境機器導入の推進

お客様の設備投資に関して、環境負荷の軽減、省エ
ネルギーなどにつながる環境機器導入の提案を積極的
に推進しています。取扱実績は年々増加し、お客様の
環境活動のお役に立っています。

●環境機器の分類

| | |
|---|---|
| 1 | 省エネルギー・省資源に貢献／ESCO事業、 太陽光発電設備、風力発電設備など |
| 2 | 大気・土壌・水質汚染など公害を防止／ 排水浄化設備、土壌浄化処理設備など |
| 3 | 循環型社会へ貢献／木屑の炭化装置、 生ゴミ飼料化設備など |

廃棄物委託業者の選定

3Rを徹底しても排出される廃棄物は、「廃棄物の処理
及び清掃に関する法律」等の関連法規を遵守しつつ、
再資源化率の高い産業廃棄物処理会社に処理を委託
し、リサイクルを推進しています。

委託会社は、当社の定める一定の基準をクリアしてい
ることを条件とし、現地視察を行い、再資源化率や設
備、経営者の姿勢などを総合的に判断して選定してい
ます。また、契約を締結した後も年1回定期的に現地
視察を実施し、再評価を行っています。

日本政策投資銀行 公共ソリューション部 CSR 支援室 調査役 伊藤 陽 様

Voice 審査担当者様の声



環境負荷を低減する機器の普及推進を評価

環境配慮型経営促進事業融資制度は、お客様が環境に配慮した
経営をしているかを格付評価し、評点に応じて金利を設定させて頂
く日本政策投資銀行独自の格付融資制度です。

同制度による貴社へのご融資では、環境負荷を低減する機器の取
扱高が大きく拡大しており、ストックヤード開設等に伴い3R関連の
お取り組みも順調に稼働していることに加え、CSR活動レポート
の発行等による情報開示も行うなど、幅広く環境に配慮した事業を
展開されている点を特に先進的であると評価させて頂きました。
リース事業は、このような取り組みを実施することによる環境保全
のための大きな潜在力を備えており、貴社のお取り組みが総合リー
ス業界の進むべき方向として定着していくことが期待されます。

お客さまの環境マネジメントのお手伝いをするため、省エネルギーとグリーンエネルギーの提案に取り組んでいます。

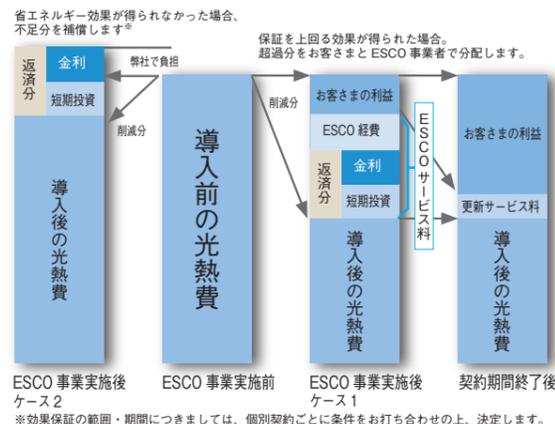
ESCO事業

ESCO (Energy Service Company) 事業は、工場やビル全体の経費・エネルギー使用量・CO₂排出量を同時に削減する省エネルギー化システムです。三菱UFJリースの環境技術に関するノウハウを駆使し、お客さまの施設に応じた省エネルギー化改修工事を当社の資金で行います。ESCO事業の最も大きな特徴は、省エネルギー効果を実に享受していただくため、省エネルギー効果（光熱費の削減）を保証している点です。もし保証した効果が得られなかった場合はESCO事業者が不足分を補償します。一方、効果が保証を上回った場合は、超過分はお客さまとESCO事業者で分配します。



2007年1月、経済産業省資源エネルギー庁の委託を受けた（財）省エネルギーセンターが実施する「第2回優良ESCO事業」で銅賞を受賞しました。

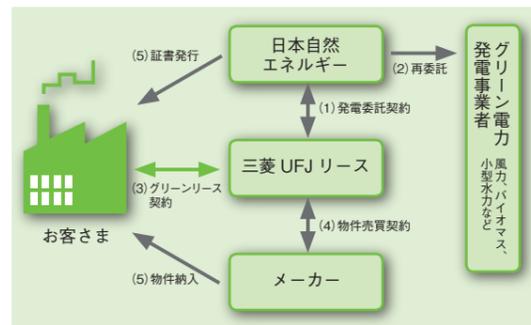
●エネルギー効果の保証と利益分配



グリーンリース

三菱UFJリースは日本自然エネルギー（株）と共同でグリーンリースを展開しています。グリーンリースとはお客さまが使用するリース設備（環境対応に優れたグリーンリース対象機種）が消費する電力の一部をグリーン電力でまかなう仕組みです。グリーン電力はCO₂が発生しない自然エネルギーで、風力発電、小型水力発電、バイオマス発電などがあり、環境に負荷を与えないというメリットがあります。グリーンリースのご利用により、環境意識の高いお客さまに手軽にグリーン電力を利用いただくことができます。三菱UFJリースは、グリーンリースを通して、環境に優しい機械・設備の導入促進と、自然エネルギーの発展を応援しています。

●グリーンリースの仕組み



機械設備のリースと併せて、「グリーン電力証書」を発行します。これにより、環境保全活動の一つとして社内外へPRできます。

環境事業部 ESCO事業課 次長 井手 義浩



Voice ESCO 担当者の声

ESCO事業のコンセプトは、省エネルギーとコスト削減の両立です。地球温暖化の影響が身近に感じられる時代となり、CSRの観点から環境負荷低減を捉えるお客さまも増え、ニーズがますます高まっています。リースや税務の知識に加えて省エネルギーに関する技術的な知識や情報が求められますが、ビルや工場が省エネルギー化されることでお客さまに喜んでいただけ、達成感を感じられるビジネスです。

環境関連企業への投資や中古機械・設備などのリユースを積極的に推進し、お客さまにも環境にも優しいビジネスを展開しています。

環境関連企業への投資

三菱UFJリースの環境事業部では、環境分野に貢献する優良な廃棄物処理業者やリサイクル事業者の育成・支援のため、産業廃棄物処理・リサイクル分野へのファイナンスの提供を積極的に実施しています。また、エネルギー効率化事業および再生可能エネルギー事業への投資を目的とした環境ファンド「FE Global-Asia Clean Energy Services Fund」へ10百万米ドルの出資を行っています。

中古機械・半導体製造設備の売買

三菱UFJリースは、リース終了物件のリユース・販売により培ったノウハウや販売ネットワークを活用し、中古機械設備の売買ビジネスに取り組んでいます。設備更新の際に不要となった機械設備や、遊休設備などを買い取って転売するビジネスで、工作機械、プラスチック加工機械、印刷製版機械、食品加工機械、建設機械など幅広く取り扱っています。また、中古半導体製造設備の売買ビジネスにも2005年より本格参入し、中古設備を購入されるお客さまのコスト削減、投資リスクの削減、納期の短縮化などにお役に立っています。こうした中古機器の売買ビジネスは、廃棄物・廃棄コストの削減と、中古機械設備の有効活用に関与し、環境配慮型リサイクル社会の推進に貢献しています。



三好リソースセンター。三菱UFJリースグループの中古機械専門商社「ユーマシン」、「MULエコビジネス」名古屋事業所が入っています。



毎年12月に開催される半導体業界における国内最大のイベント「セミコン・ジャパン」に出展しています。(2006年12月6日～8日)

産業機械部 チームリーダー 羽澄 剛



Voice 中古半導体製造装置 売買 担当者の声

不要となった設備を廃棄するのではなく、それを必要とする方に提供するため、設備を売却頂くお客さま、購入頂く側のお客さま双方に喜んでいただくことができます。また、半導体製造装置は非常に高価なものであるため、中古品を利用することで、よい装置をリーズナブルに購入できること、また新規に発注するよりも早くお客さまの生産に組み込まれることも評価され、喜んでいただいています。

リース終了物件の適正な処理により、
環境保全・情報セキュリティリスクへの対応を実施しています。

MULエコビジネスの役割

MULエコビジネス（以下：MEB）では、三菱UFJリースグループのリース・レンタル終了後のコンピュータ・OA機器類を回収して、データ消去した後に、リユース・リサイクルする活動を行っています。

MEBはリース・レンタル終了物件の適正処理業務を通じて、環境保全活動へ貢献するとともに、PCリースやレンタルをご利用いただいたお客さまに対する情報セキュリティ面およびコンプライアンス面からの高品質な業務サービスを提供し、三菱UFJリースグループの「出口の信用」を支えています。



MULエコビジネス（東京事業所）全景



MULエコビジネス（東京事業所）のスタッフ



MULエコビジネス（名古屋事業所）のスタッフ

*2007年4月からUFJCL三好リースセンターを統合し、東京・名古屋の2拠点体制となりました。

3Rを徹底し環境に配慮した運営

環境保護への具体的な取り組みとしては、以下のようものが挙げられます。

1 回収物件のリユース推進

2006年度は約152,000台のリース・レンタル終了物件を回収し、データ消去・シール剥離後に中古製品として132,000台を販売（リユース率87%）しました。

2 回収物件のリサイクル・リデュースによる廃棄量の削減

製品として販売不可能な物件は、手解体により部品と鉄などマテリアル素材に仕分けし販売しています。手間のかかる作業ですが、廃棄物の排出削減とリサイクル促進に役立っています。最終的に排出することとなった廃棄物も、ゼロエミッションを実現する企業へ廃棄処理を委託す

業務の流れ

01 荷受（開梱・仕分け）

1日およそ600台が入庫します。入庫した物件にはすぐにバーコードを発行（付属品をのぞく）し、1台1台厳しく管理します。



02 シール剥がし

情報漏洩防止の観点から、貼られているシールはすべて剥がします。チェックは入庫時・データ消去時・販売前の3度にわたり行い万全を期しています。

03 仕分け

検品しリユースが可能などうか仕分けをします。



04 データ消去

データ消去プログラムの入ったサーバとLANケーブルでつなぎ、ネットワークブートでHDDの消去作業を行います。1度にデスクトップPCは100台、ノートブックPCは400台まで消去ができます。



05 物理的破壊・手解体

データ消去をすることができないHDDは、穴を開け、物理的に破壊します。HDDを取り出した後、手解体でCPU、メモリ、基盤などの各種部品を取り出して仕分けし、部品として販売します。筐体（鉄）もマテリアルとして販売し、廃棄物の量を削減します。



06 販売

使用時の痕跡を一切消去した物件は、中古機器として、当社の審査を経た特定の中古業者に販売します。



ることで、最終的にはリサイクル処理が行われます。

3 [ISO14001] 規定の遵守

2001年1月に業界で最も早くISO14001認証を取得し、日常運営においてもISO規定を遵守し、省エネ・省資源を徹底しています。

4 環境教育によるモラル向上

MEBは出口部門の最前線との認識のもと、全社員に環境保護とコンプライアンス遵守に関する徹底した教育を行っています。

情報漏洩防止への取り組みと管理体制

近年PCのデータ漏洩が目立っていますが、MEBでは従来より情報セキュリティ対策を重視した体制を整えています。

入庫されたコンピュータのHDDデータはすべて、外部に漏れないよう、信頼性の高い消去ソフトで即日消去しています。消去ソフトでデータを消せないHDDは物理的破壊を行い、データの復元を不可能にしています。また、貼付されているシール類はすべて剥離し、お客さまとリース会社の痕跡を完全になくしています。このシール剥離については3度のチェックを行い、安全を徹底しています。加えて、2003年11月以降に受け入れた物件はすべてバーコード管理をしており、現在では処理台数10,000台に1台の誤差がでるかどうかという、優れた在庫精度となっています。一連の作業のうち、廃棄物処理以外は外部委託せずに、すべて自社内で行っています。